

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201499		
法人名	(有)日本健康管理システム		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	兵庫県神戸市西区前開南町2丁目13-6		
自己評価作成日	平成23年7月29日	評価結果市町村受理日	2011年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成23年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域と密着したホームになるよう児童との交流や近隣同業者との情報交換に力をいれている。 ・地域包括の協力により研修もおこなわれ職員の知識や意識の向上にも繋がっている。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地下鉄伊川谷駅の近くの閑静な住宅地に事業所がある。近くに小規模多機能事業所があり、協力体制ができています。法人の4つのグループホームが連携を取り、情報交換や研修等を合同で行い、質の向上に努めている。看取りも数名対応した。入居者と職員が家族として楽しく過ごせるように、まず職員が明るく楽しく、入居者に接するよう努めている。職員からの意見が活発に出るようになり、夏祭り、各ユニットでのバイキング方式の食事、新開地劇場や神社めぐり等その人にあった行事を楽しもうと行事の内容も工夫している。3ユニットそれぞれの特徴を大事にしながら、リーダー会議や勉強会等を通して、書式等の統一を図る試みを行っている。ユニット間の連携や家族会の立ち上げ等の課題を事業所の質の向上をめざした目標に取り組みたい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホーム さくら 1F

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに掲示しており、管理者と職員は基本姿勢として心に刻み、毎日の実践につなげている	事業所設立以来「ゆつくり、一緒に、楽しく」を理念とし、会議等で確認し、共有している。管理者は職員に対して、忙しいとき、一呼吸して理念を思い起こし、気分を入れ替えて仕事をしてほしいと伝えている。会議等で迷った時は理念に基づいた解決を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出時に会った方には必ず挨拶するよう心がけている。地域の廃品回収には参加している	自治会には加入していないが、運営推進会議の出席者等から地域の情報をもらい、来年はホテル観賞に出かけたいと検討中である。小学生との交流が定期的になされており、外出時に訪問したことのある小学生から声かけられ、利用者の喜びにもなっている。認知症サポーター養成講座を地域の住民対象で秋に開催する予定。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方には認知症の方の理解や協力を依頼し、いつでも気軽に見学してもらえよう対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価、実地指導の結果、改善した点を含め報告している。要望や意見は可能な限り運営に反映している	入居者代表、家族、民生委員、地域包括、小規模多機能事業所が出席し、定期的開催。質疑応答で、事業所から出されたヒヤリハットの内容に関して、家族でできることの提案や、民生委員から地域を巻き込んだ避難訓練の協力等がある。会議終了後、出席者の行事参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の福祉部の方とは連絡をとったり入居者に関わることについては連携をとっている	利用者のうち10名ほどが生活保護受給者で、区の福祉部とは常に連絡を取り合っている。区のグループホーム連絡会や、ケアマネ会議、小地区連絡会等で区役所の職員と話し合い、何かあれば相談できる関係性ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間教育に取り入れ、研修に参加し理解を深め折に触れ話し合いもなされている	すべての職員が研修を受けている。言葉の拘束についても、意識を促すため、申し送り時に常に話している。新人職員には質問形式を用い、理解を深める工夫をしている。利用者の身体状況変化は原因を話し合っている。玄関の施錠はしていない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底		3か月に1度虐待のチェックリストを用い、職員間	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と同様におこなっている。虐待のチェックリストを行い、注意を払って防止に努めている	で話し合い、注意を喚起している。管理者は職員が一人で問題を抱え込まないよう相談にのり、働きやすい勤務体制や、資格取得等も支援している。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居までの一連の流れに関わるものとして当然必要な知識でありケースによりその制度を利用していることが大きく関係している	成年後見制度、日常生活自立支援事業を利用している人がいる。入居契約時に、本人、家族にパンフレットを渡し、説明している。職員も学ぶ機会を持ち、事業所全体で、制度の理解と活用に努めている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や重要事項説明時、見学時など全ての書類を説明しているが一度に多くの説明をする為、全てをご理解頂けないのが現状で、時間が経過してから改めてお声をかけさせて頂いている	重要事項説明書をもとに、大事なところは繰り返し説明し、理解、納得を得るようにしている。見学は可能で、入居者と一緒にはばらく話し、ホームの雰囲気を感じてもらっている。料金等改定時は書面で説明、運営推進会議に報告している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者様、家族様にも参加して頂き、意見や要望をお聞きし可能な限り運営に反映させている	運営推進会議の場で、出席した家族から積極的な意見をもらい運営に反映させている。しかし、他の家族からは個別相談が主になっている。今後は家族会を立ち上げ、家族同士の意見交換や認知症の理解、家族の要望を一緒に考える場にしたいと考えている。	是非、家族会を作り、家族同士の話し合いや事業所との意見交換を通して、さらなる質の向上に努めて欲しい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案等は随時聞くようにしている。内容によっては毎月の代表者会議で報告し組織全体で把握するよう努めている	フロア会議で、意見を出しあい、職員の担当制や、休憩時間のとり方等話し合っている。また、ストレスチェックシートやスタッフシートを活用して、働きやすい環境整備や介護職員の質の向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チェックシートやスタッフシートを活用し向上心を持って働ける環境整備と能力や仕事への意欲の評価と処遇への反映に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修など希望があれば参加できるよう勤務調整を行っている。ケアの質について出来ていない、力量不足が見られたら、その場で指導を行い知識、技術を身につけるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との研修や勉強会などで交流する機会を設けている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の様子や会話、家族様の話などをふまえて安心できる環境を整えるよう努めている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望等をお聞きし、信頼関係を築くよう努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の出来る事、出来ない事をお聞きし出来る事は見守りながらして頂き、今必要とされている事を支援するよう努めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を見極め、出来る事は進んでして頂き、一緒にする楽しさを知って頂く		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告や面会時に毎日過ごしている様子を話している。本人様に何かあれば家族様に連絡を取っている		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会や一部の利用者様は家族様の協力を得て、馴染みの場所への外出支援を行っている	友人や宗教関係者、飼い犬の訪問もある。遠くの教会へ行っていた利用者が、近くの教会へ変わったり、散髪も近くの理髪店を見つける等、利用者の大事にしてきたことを継続する支援がなされている。古くからある大衆演劇場へも行っている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの会話やレクリエーションを楽しまれたり手伝い等も役割分担し仲良くして頂いている		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もSWやCMとの連携をとり、落ち着いた先が決まるまで支援している。又職員が自主的に退去先へ面会に伺うなどしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の個性を尊重しつつ、その人に合った対応に努めている	入居前の情報に、ホームでの気づきを介護記録に書き加えている。他の利用者と離れて、職員と1対1になる時、思いが聞けることがよくある。サービス担当者会議で、担当職員を中心に、利用者の思いや意向を介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートにより個々の情報を把握し、本人様より話が聞ければ昔話や家族の話等を聞くよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理せず家庭で過ごしている様に一日を過ごして頂くよう心がけている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のカンファレンスで気になる事などを話し合い、サービス担当者会議を開催し面会時には家族様の要望を聞いたりしながら介護計画を作成している	サービス担当者会議の内容をもとに、利用者、家族、主治医、看護師や友人の意見も反映させ、計画作成者が介護計画を作成している。モニタリングは担当職員が中心に行い、見直しに繋げている。「現存能力を維持しながら、その人らしく、安心して生活できる」を意識して計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のカンファレンスで気になる事などを話し合い、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナルケアの実施やボランティアの訪問等、出来る限り本人の思いに添えるよう支援している		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や地域の行事の参加など支援している		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や家族様の協力を得ながら希望の病院を通院したり専門医院への必要に応じての受診など支援している	本人、家族の同意を得て事業所の協力医院をかかりつけ医としている。月2回定期往診や急変時診察、それらをもとに相談や指導も受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理は主治医との連携にて異常時は24時間対応している。必要時は訪問看護との連携もとっている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを提出し病棟NSとSWに依頼し時々訪室し退院まで状況把握している。受診の際はSWを訪ねコミュニケーションを図っている	入院時により、心身に大きなダメージをもたらす事がないよう、職員が見舞に行き、利用者と話したりする。又本人、家族、医師と話し合いのもと事業所内での対応可能な段階で、情報交換しながら速やかな通院支援につなげている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の変化に対応し、出来るだけ早くから主治医と家族様と話し合い、本人様や家族様の意向を確認しチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じて、家族、主治医を交えた話し合いを早めに行い、利用者、家族の意向に添えるように取り組んでいる。直前まで食事を口からとりながら最後を看とった経験は、スタッフの満足感と自信につながった	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会に参加したり、マニュアルを作成し、すぐに対応できるようにしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜間を想定し、定期的に訓練等を実施し地域の方の協力も得られている	年1回消防署、2回消防自衛訓練、さらに器具点検2回と定期的な消防訓練を、近隣も加わり実施している。毛布、物干しざおで担架を作り、外へ搬送する訓練、利用者個人のリュックも背負って(水とカロリーメイト入り)の避難訓練は楽しく実施できた。又災害に備えての準備もできている。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもあげているように一人一人の自尊心を大切にし、個々のプライバシーを保持するよう努めている	自己決定ができるケアを心がけ、利用者の思いを大切にしている。呼び方、声かけの仕方など、スタッフ間で統一した支援を共有している。利用者の個人情報には漏らさない事を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをして頂く時には声かけをし、自己決定出来る様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、利用者様のペースを大切に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の好きな洋服を観察し、更衣時にはおしゃれの楽しみを持って頂くよう支援したり、2ヶ月に1回の訪問美容を利用している		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備や片付けなど毎日の日課としてコミュニケーションをとりながら行っている	下ごしらえ、盛り付け、洗い物等できる範囲で職員と共に行っている。食材は外注しているが、利用者の好みに応じて、メニューは工夫されている。手作りおやつも楽しみで、職員と利用者が同じテーブルで食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など少ない方などはデータを取り声かけや好みの物を提供し一日に必要な量を摂るように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は声かけし、磨き残しがあれば職員がしている。出来ない方は介助している		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけや介助に努め、自立に向けた支援を行っている	排泄リズムを把握し、日中トイレ誘導を行い、排泄の自立に努めている、入院中おむつ使用の方が、事業所のトイレ誘導で少しずつ、おむつから解放される様子を見て、職員は自立支援に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や水分補給など個々に応じた予防を行い、便秘の場合はDrに相談しながら原因や種類などを理解し便秘薬の服用をして頂いている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日順番に入って頂く為、希望を全て聞くことは難しいが、気持ちよく入浴が出来る様、その人に合った時間で入浴して頂いている	その人にあった時間で、順番に入浴、曜日は決めず、週2回の入浴支援としている。入浴拒否の場合、家族の協力や声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った入眠をして頂く様、消灯時間は決めていない。状況に応じ、日中休んで頂いたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は職員がすぐに見れる場所に保管し飲み忘れが無いよう確認している。異常などがある時は主治医との連携もとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を活かし楽しく過ごせるよう支援している。気分転換に散歩の希望があれば天候・体調に考慮し行っている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は、近くの公園に散歩に出かけたり、買い物に行ったりしている。家族様の協力も得ながら外出支援している	日常的な支援として、気分転換を図るために希望する場所への遠足、介護タクシー、マイクロバスを利用してのドライブ援助ができています。(教会、コンサート、大衆劇場など) 家族の協力で、フルーツ・フラワーパークも行き、近所へ買い物に出かけたり、又散歩もしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様や家族様の希望があれば、所持し使えるよう支援している。ほとんどの方は、お小遣い程度をお預かりして、必要時にお渡ししている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族様やご友人の電話して頂けるよう支援している。遠方のお孫さんからの手紙が届いた時などは返信するよう支援している		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは笑い声が沢山あり、歌を歌ったりと楽しく過ごさせている。特に共有スペースには利用者様と一緒に作った壁飾りで季節感を演出している	リビングはテレビを観たり、利用者が心地良く過ごせるようソファ、家具の配置を工夫している。バリアフリー設計で、畳のコーナーは洗濯物をたたんだり、くつろげるスペースになっている。又手作りの壁飾りで季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを観られたり気の合う方同士の談話スペースであるソファの配置に考慮している		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様・家族様と相談し、使い慣れた家具などを持って来て頂き配置し、自分らしい生活感のある居室にしている	馴染みの家具の持込みで、例えば猫好きな利用者は壁に猫の絵を切り取って貼ったり、本人が居心地良く過ごせる居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計になっているが、リビングは比較的広いため生活リハの一環となっている。手すりのない居室などは家具などを支えにして歩く方も多いため環境整備にも配慮している		